

令和6年度第3回箕面市支援教育充実検討委員会 議事録

日 時：令和7年2月18日（火）午後6時30分から午後8時00分

場 所：オンライン開催

出席者：伊丹委員長、野口委員、小田委員、辻野委員、俵積田委員、金城委員、楠橋委員、脇委員、田草委員、末廣委員、ゆうやけの会代表者、つばさの会代表者
新居教員（小学校通級担当者）、文教員（中学校通級担当者）
江見教員（事例発表者）、芝教員（事例発表者）

事務局：藪本局長、高取学校教育監、濱口担当副部長、乾人権施策室長、赤城児童生徒指導室長、北川教職員人事室長兼教育センター所長、大上保育・幼児教育センター長、脇井児童生徒指導室担当室長

人権施策室：川田室長補佐、田口室長補佐、大坪室長補佐

傍聴者：3名

1. 開会

（伊丹委員長）

それでは定刻となりましたので、令和6年度第3回箕面市支援教育充実検討委員会を開催いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます、委員長の伊丹でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、前回に引き続き、通級担当者として小学校で通級を担当されている新居教員と中学校で通級を担当されている文教員にもご参加いただきます。

また、PBS（Positive Behavior Support：ポジティブな行動支援）に関する校内の取組事例につきまして、豊川南小学校の江見先生と第五中学校の芝先生から発表していただきます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。「案件1. 令和7年度予定している支援教育充実事業について」でございます。

事務局より説明をお願いいたします。

2. 議事

案件1 令和7年度予定している支援教育充実事業について

（事務局：川田室長補佐）

○資料1（【1】1. 学びの場の充実について）に基づいて事務局から説明。

（伊丹委員長）

ありがとうございました。

学校からの要望に沿い、通級指導教室を全校に設置し、複数名の通級指導教室担当教員を配置している学校もあり、今後も引き続きこのようにやっていただけるということは、立派で素晴らしい取り組みであると思います。

『学びの場の充実について』につきまして、ご意見、ご質問はございますか。

（新居教員）

豊川南小学校では、昨年度は通級指導教室担当教員が1人だったのですが、今年度は3人配置していただき、たくさん子どもたちのサポートが出来て本当に感謝しています。ありがとうございます。

通級指導教室担当教員の複数配置が行われている学校の場合は良いのですが、やはり今年度の通級指導教室の課題は、兼務です。兼務は、その学校へ行く先生も大変ですし、受け入れる学校の先生がたも大変だったのではないかと思います。

通級指導教室担当教員は、担任の先生との連携を密にする必要がありますが、兼務の通級指導教室担当教員は曜日が限定されるため、自分が行かない日の子どもの動きがわからない、個

人懇談を組む際などに曜日が限定していて日程を組みづらいということがあります。そのようなことから、出来れば兼務ではなく通級指導教室担当教員の複数配置が望ましいと思います。

また、学校によっては、通級指導教室として利用できる教室がない、教室はあるがエアコンが設置されていないなどの問題がありますので、環境整備もより充実していただけると助かります。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

現場の先生ならではのご意見かと思いますので、是非検討していただければと思います。

続きまして、『教職員の在り方について』、事務局より説明をお願いします。

(事務局：川田室長補佐)

○資料1（【1】2. 教職員の在り方について）に基づいて事務局から説明。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

研修等において、実践を伴った素晴らしい取組を取り入れていただき、ありがたいと思っております。

『教職員の在り方について』、ご意見、ご質問はございますか。

(協委員)

通常学級の多層型支援の充実について、授業のUD（ユニバーサル・デザイン）や基礎的環境整備に関して、通常学級の先生や教科担任への研修をさらに手厚くしていただきたいです。

今後、支援学級から通級指導教室へ、あるいは通常学級に戻っていく子どもが増えていくと思いますので、通常学級の先生がたにもそのような意識を持っていただき、学校全体として取り組んでいくためにも研修の充実をお願いしたいと思っております。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

通級指導教室の充実など、色々な点を考慮しても、本市の支援教育を充実させるためには通常学級の先生にも意識を持っていただくことが非常に大事だと思います。

ほかに何かご意見等ございますか。

(金城委員)

資料1「2. 教職員の在り方について『③特別支援学校教諭免許取得の費用サポートを継続』『④府立支援学校への派遣研修』」について、とどろみの森学園では、中学校籍の支援学級担任が今回の特別支援学校教諭免許取得の研修を受講し、来年も引き続き受けることになっています。また、大阪府立箕面支援学校での派遣研修にも参加させていただきました。本人はとても勉強になったと言っており、校内でフィードバックしてくれて、話す内容にも研修の成果が非常に出ています。研修を通じて、支援学級担任の専門性を高めることが出来たのではないかと考えており、非常にありがたく感じています。今後ともぜひこのようなサポートをしていただきたいと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。

ほかにご意見・ご質問等ございますか。

(楠橋委員)

中小学校の支援コーディネーターの楠橋です。今年度も来年度も、たくさん研修を組んでいただき、大変ありがたく思っています。

資料1「2. 教職員の在り方について《支援教育を充実させる4つの視点 D：支援教育コーディネーターの養成》」について、本市には支援担当者連絡会というものがありますが、そこ

での研修は話を聞く機会が多いので、私たちも参加させてもらって一緒に話をしたり、学校の悩みを話し合うような場も一緒に設けていただけると大変助かります。

(伊丹委員長)

貴重なご意見ありがとうございます。
ほかにご意見・ご質問等ございますか。

(協委員)

資料1「2. 教職員の在り方について『④府立支援学校への派遣研修』」に関しまして、非常にありがたい取組ですが、例えば、豊中市では通常学級の授業に支援学級の担任と一緒に入り、つまづきのある子どもに関わっていく「教科入り込み促進」等、通常学級の支援に熱心に取り組んでおられるので、実際に見学に行かせてもらって他市との交流を図るのも勉強になるのではないかと思います。支援学校の専門性と一般校での支援の方法の、両方の良いところを知ることができると、もっと現場にも還元していきやすいかと感じます。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。
本市の実践を増やしていくという視点で、非常に良い意見だと思います。

(新居教員)

研修について、いつも準備をしていただきありがとうございます。新しく通級指導教室担当教員になられた先生も、色々な研修を受けて力が身についていると感じています。

研修において、このようなものがあればありがたいと思うのが集団づくりについての研修です。箕面市支援教育充実検討委員会が出来たきっかけは、平成30年に本市の中学校で支援学級在籍生徒に対するいじめ重大事態事案が発生したことです。大阪府が大事にしてきた「ともに学び、ともに育つ」教育のもと、子どもと子どもをつなぐ、人権教育、人間関係づくりなどに重きを置いた集団づくりが大事だと思いますので、そのような研修を是非用意していただきたいです。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。「ともに学び、ともに育つ」教育という視点は大事ですね。

(末廣委員)

会計年度任用職員の支援教育支援員も含め、悉皆研修以外にもオンデマンド等で受けられる研修を設けていただいて、学びを深める機会を多く作っていただけたのがとてもありがたかったです。

職員に研修のことを周知すると、ぜひ勉強したいという声が多くあり、第二中学校では会計年度任用職員の支援教育支援員も積極的に研修を受けてくれました。研修で得たことを、生徒に合わせてカスタマイズしながら日々の支援に反映させ、想像力を持つことや柔軟性の大切さも考える機会になったと思います。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。
では続きまして、『その他』について、事務局より説明をお願いします。

(事務局：大坪室長補佐)

○資料（【1】3. その他）に基づいて事務局から説明。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。
一般社団法人UNIVAにつきましては、野口委員が参画されていますが、野口委員より補足等がございますか。

(野口委員)

事務局が説明したとおりです。通常学級における先生がたの手だてが増えたということが、かなり大きな収穫だと思っています。

先ほど協委員からも、通常学級の先生への研修の充実というお話がありましたが、多くの先生がたは具体的に何をすればよいかが分からない状態です。そこで、支援担当の先生、通常学級の先生、人権教育担当の先生が中心となって企画してくださり、年間を通じて研修を行うなどの取組を進めました。これにより、これまですぐに校内委員会に上がっていたような通常学級の先生からの相談が、かなり減ったという成果を聞いています。

ここで得たノウハウを箕面市内の他の学校でも活用していただけるように、来年度は研修等にも取り入れていただけると良いのではないのでしょうか。

また、この社会モデルの事業はとてもチャレンジングな取組で、本市以外に二つの自治体で行っています。いわゆる障害理解教育ではなく、今の社会が、障害のない人や障害に限らずマジョリティーを中心につくられているから、困難さや不便が生じているという考え方を子どもたちに知ってもらい、現在の学校や社会の「普通」を、より多様な人がいることを前提にしていくにはどうすれば良いのかということをも具体的に考える事業です。子どもたちと一緒に、どのようにすれば障壁を解消できるのかということも考えていきますので、先生がたからは、ただ我が儘を言うだけになってしまうのではないのかという懸念も出ていますが、これを子どもたちに正しく伝えていくことがインクルーシブな学校づくりでは非常に重要です。来年度は、今年度の先生がたからの意見を踏まえて、更にブラッシュアップしたバージョンを先生がたに実施していただき、箕面市内の他の学校でも今後やっていただけるように進めていければと思っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

ただいまの補足等も含めまして、本当に素晴らしい取組ですので、これをブラッシュアップして全ての学校で共有できるような形になれば、非常に良いと思います。

続きまして、「案件２．学校における実践例について」でございます。

事務局より説明をお願いいたします。

案件２ 学校における実践例について

(事務局：川田室長補佐)

本市では、検証加配校５校において PBS を積極的に進めており、検証及び課題の洗い出しを実施しております。本日は PBS の取組について、検証加配校５校のうち、豊川南小学校と第五中学校から、取組の報告と課題等をご報告いただきたく思っております。

では、まず豊川南小学校からお願いいたします。

○資料２（PBS に関する校内の取組事例【豊川南小学校】）に基づいて江見教員から説明。

(江見教員)

豊川南小学校は、検証加配校として昨年度より PBS の取組を行っております。その中から、本年度の取組について紹介させていただきます。

まず、学校全体の取組として、二つ実践していることがあります。一つ目は、「褒め御籤^{みくじ}」というものです。これは職員向けですが、褒めるといってもどのような視点で褒めればよいのか難しいという意見があったため、朝教室に行く前に、褒めポイントを張ったボールを１つ引いてもらい、書いてある褒めポイントを一日意識しながら教室内で過ごしてもらうというのを行っていただきました。担任だけでなく、たくさんの先生に取り組んでもらえるように、１５項目ほどのボールを用意して職員室の入口の前に置きました。資料内の写真には「努力を褒めよ」「書く姿勢を褒めよ」などと書いていますが、「職員室の隣の先生を褒めましょう」「自分自身を思い切り褒めましょう」など、遊び心も入れながら２学期の間取り組みました。

二つ目は、「リフレーミング」というものです。夏休みに、通級指導教室の先生が支援担当の先生に、使用している教材や教具を共有する校内研修をしました。その中で、通級指導教室

の先生からご紹介いただいたものがリフレーミングです。ものの見方を変える、短所を長所に見方を変えるということで、学校内でも自己肯定感が低い子が増加しているので、見方を変えたらそれも長所になるんだよという意味合いを込めて、「かえるカード」を職員室前に掲示しました。職員室前を通らない子も多いのですが、校長先生から児童朝会で全体に紹介したことによって、かなり興味を持つ子が増えて、ひっくり返しに来てくれることが多くなりました。資料を見ていただくと、黄色のカードは短所的なマイナスイメージの言葉が書いてあるのですが、裏面の白色のカードには長所の前向きな言葉が書いてあります。子どもたちが予想以上に熱心に読んでいたり、ひっくり返した形跡があったり、多くの子どもたちが見に来てくれている印象があって非常に効果があったと思います。

続いて、学年ごとの取組についてですが、昨年度は発信が上手くいかず、クラスごとの取組に偏ってしまった印象がありました。今年度は夏季研修を利用して、学年ごとの実態に合わせてPBSの取組内容を学年ごとに計画してもらい、2学期から取組を開始しました。簡単にはありますが、学年ごとの取組の紹介をさせていただきます。

1年生は、「ふわふわの木」という取組を行いました。みんなの気持ちがふわふわになる言葉を身につけることを目標に、担任がふわふわ言葉を使っている子を見つけたりロールプレイを実施したりして、どんな言葉がふわふわ言葉なのかを紹介しました。また、葉っぱに一つずつふわふわ言葉を書いてふわふわの木をつくり、廊下に掲示していつでも見えるような形で示しました。振り返りとして、帰りの会に時間をとってふわふわ言葉を集めたので、気持ちよく「さようなら」ができて温かい雰囲気になったという子どもの変化があったり、教職員も子どもの発言によって新たな発見が出来たり、子どもを見る視点が増えたという良いきっかけになりました。

2年生は、「自分の思いや考えを発信しよう」という取組を行いました。温かい関わりができる、安心して自分のことを発信できる学年団にしていこうということで、本取組を実施しました。否定されず安心して発言できるような話しやすいワークを実施したり、すごろくなどを用いて話しやすい雰囲気がどのようなものかを感じてもらおうという取組を進めました。振り返りとして、自分の力で解決できる子が増えたと思います。教員が関与しなくても、子どもたち同士で「ごめんね」「いいよ」「何が嫌だったの」と言えることが増えたと感じています。一方で、良いところを見つけて何か言われたいがために行動をする子が増えていて、動機が不純なのではないかという意見も出ました。きっかけはそのようなことが多くなるとは思いますが、行動を重ねて、こういうのって気持ちいいな、これってすてきなことだなという実感を積み重ねていくことが大切だと思うので、きっかけはどのようであっても行動で表れることが素敵だと、私からも伝えさせていただいております。

3年生は、「そうじ名人になろう」という取組を行いました。学習に取り組みやすく、毎日気持ちよく過ごすために、まずは環境を整えてきれいにしていこうということで本取組を進めました。3年生は、学年団がすごく協力して頑張ってくださり、まずモデルの提示として、学年集会で先生がたによる掃除の寸劇を実施しました。良いモデルと良くないモデルを示して、これについてどう思うかを子どもたち自身に考えさせて、どのような方法がよいのかを気づかせるきっかけづくりをしました。また、掃除の仕方を写真に撮って廊下に掲示し、いつでも掃除の仕方を確認できるようにしたり、子どもたちのやる気を喚起させるために、そうじ名人への道という「①1時10分のチャイムで全員そうじをはじめている」「②終わりのチャイムでつくえが元の場所にもどっている」「③手洗い場の下のところがきれいになっている」の3つが出来ていたら、シールを貼ることができる取組を行いました。そうじ名人への道では、シールは1日最大3枚まで貼ることができ、1枚のシートがシールで埋まるごとに、学年体育で皆で楽しい時間を過ごすことができるという楽しい目標を立てました。子どもたちがやる気になるような仕掛けをたくさんしていただいて、とても良い取り組みだったと思います。シールが着々とたまっていくことで子どもたちにもすごく伝わりやすく、もう少しでたまる、もっと頑張ろうという子どもたち同士の声かけも増えた印象がありました。振り返りとして、写真などで提示することで、何をしなければいけないか、何をすればいいのかということがはっきりして、自分で考えて行動できる子が着々と増えたと感じています。多くの先生に声をかけてもらえたことで、子どもたちの向上心が高まり、頑張ってくれる子どもの姿がたくさん見られまし

た。今の学年の担任団は、4年生になっても引き続きこの取組を続けてほしいという思いがあるので、来年度に上手く引き継いでいきたいと思います。

4年生は、「認め合おう」という取組を行いました。安心して楽しく過ごせるということを目指し、良いところ探しをしたり、良い姿を見える化する取組を行いました。資料にはありませんが、教室でクラスごとに写真を飾ったりしていました。子どもたちの変化としては、意欲がすごく向上して頑張る姿が見られました。教職員も、褒めることをより意識して写真やパワーポイントで共有や振り返りができるように工夫したり、子どもたちの様子をよく見るようになったことで新しい気づきを得る先生がたも増えました。

5年生は、「みんな揃って移動する」という取組を行いました。次の活動にスムーズに進むという目標を立てて、学年集会で普段の並んでいる姿を見せて、どのように思うかを問いかけて子どもたち自身に考えさせることをしました。宿泊行事などもあったので、時間を守る大切さ、次の移動のときに意識する大切さ、協力しなければならないということを意識してほしいという思いで取り組みました。振り返りとして、行事で同じ目標に向かって頑張れる子どもの姿がたくさん見られたということと、楽しいほうに流されてあまり約束を守れない子もいましたが、そのような子どもたちが少なくなった印象がありました。課題としては、先に並んでいる子どもたちもいるのですが、後から来る子もいて、全体としてはまだ時間がかかってしまっているの、さらにスムーズに行動できるよう引き続き行っていきたいです。

6年生は、「相手を思いやる心を持とう」という取組を行いました。学年目標が「最高」という言葉なので、最高の学年にするためには何ができるかを考えて意識してもらいました。出来ていたところは子どもたちの自信になるようにして、出来ないところは伸びしろとして、これからどうしていくかを子どもたち自身に考えさせて、そのあと行動に移すように伝えていました。振り返りとして、直接友だちに言えなくても「あの行動よくなかったと思う」と後から先生に伝えに来てくれる子がすごく増えて、学年目標の「最高」ということを意識して、たくさん活動に参加できる子が増えたという印象があります。子どもたちのふり返りにも、最高という言葉が登場するようになって、意識づけとしても上手くいったと思います。教職員としても、叱る・怒るよりも、励ます・声をかけるという前向きな言葉がけがすごく増えました。

3学期は残り僅かですが、課題だと感じていることにしっかり向き合えるよう、各学年頑張っているところと取り組んでいるところとです。

最後に、成果と課題について、報告いたします。成果としては、学校全体で目標を統一してもよかったのではないかと考えていましたが、やはり学年それぞれ実態が異なっており、それぞれの担任の先生がこの子たちにはこの力を身につけてほしいという思いがあったので、学年の実態に合わせて目標を設定したことはとても良かったと思います。学年ごとに取組を考えたことで、学年の先生全員の視点を統一して、同じ基準で声かけや励ましをすることが出来ましたし、子どもたちが何をすべきかということが目に見える形ではっきりしていたことで、子どもたち同士のお互いの声かけが増えました。

一方で、課題としては、教職員向けの「褒め御籤」について、達成したら一日の終わりにシールを貼ってもらうよう、職員室の出入口にシートを作っていましたが、シールの台紙を剥がして貼ることが手間だったようで、くじは引いてもらえてもシートの記録まではなかなかつながりませんでした。記録の方法に改良の余地があるということが、目に見える形でよくわかりました。褒める視点としては非常に伸びましたが、記録の集計にもう少し工夫が出来れば良かったと思います。またこの点について、3年生が良いモデルケースだったと思います。やはり記録を視覚化することで、子どもたちの意識が大きく変わった実感がありました。自ら気づいて行動する姿がたくさん見られたので、見える形での提示は今後も続けていきたいですし、子どもたちがすぐに確認できて、分かりやすい記録の方法をさらに模索する必要があると思います。

以上で、今年度の豊川南小学校の発表を終了いたします。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

丁寧にご説明いただきまして、ありがとうございます。

非常に温かい、素晴らしい取組だと思います。

この件に関しまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(辻野委員)

本校の支援教育コーディネーターの江見教員から話がありましたが、学校全体を俯瞰的に見て一言で言いますと、こういった前向きな取組をやっていくことで、学校全体、職員全員が明るくなったと思います。また、学年によっては、掲示物を教室内ではなく廊下側に掲示していて、校内を歩いていてもすごく温かい気持ちになる良い取組だったと思います。

先生がたも、子どもたちにこのような姿になってほしいからこの取組をするという思いを持って取り組んでくださり、3年生は先生がたが劇をしようと仕掛けたことで、予想どおり子どもたちの行動に変容が見られて、先生がたも達成感を感じられたと思います。また、取組内容を事前に相談して準備も進められていたので、本当に学年チームとして成長したと思います。学年集会で、取組の途中に振り返りの時間を設けることができたのも良かったと思います。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

そのほか、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

(俵積田委員)

私も温かい学校づくりを目指してますので、非常に参考になりました。中学生でも出来そうな内容に感じましたし、全然幼いとも思わなかったです。

第二中学校の先生がたも豊川南小学校に近い雰囲気があり、そのような集団の中で子どもたちも育っていると思いますが、どうしても行き詰まるときがあります。そのような場合に、リフレーミングの取組のように、「かえるカード」をひっくり返すと見方が変わる言葉が書かれているというのは先生がたも目に入ったときにそうだなと自分自身に言い聞かせることが出来ますし、子どもたちも時々でもそのように感じてくれたらと思いました。また何か参考にできればと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

小田委員、何かご意見等ございますでしょうか。

(小田委員)

とても素晴らしい取組だと思います。ポジティブな面を強調していくことは、集団づくりを考えていくうえで非常に重要であり、学校全体がそのような傾向にあるのは大事なことだと思います。

一方で、たまにはネガティブな行動も取り上げて、ポジティブな面と対比することで褒めることの意味がより強調されると思います。最近の学生を見ていると、少しでも指摘をされたり違う意見があると、落ち込む様子が見られて、叱られ慣れしておらず社会に出たときに大丈夫なのかとすることがあります。褒められることには慣れていても、それは違うと言われたときになかなか受け入れられない傾向があると思います。褒めることは大前提でありながら、自分のあり方を考えることも社会に出るうえで大事だと思いますので、これも踏まえて何か題材を上手く使っていければよいのではないかと思います。全体として、非常に素晴らしい取組だと思います。

(伊丹委員長)

貴重なご意見をありがとうございます。

野口委員、PBSについて専門だと思いますが、何かご意見はございますか。

(野口委員)

素晴らしい実践だと思いました。まず、先生がたがポジティブな声かけやポジティブなフィードバックを子どもたちにしたいと思う環境が整っていて、それを先生がたがやってよかった

と思える、いわゆる先生がたへの PBS が肝になると思います。ですので、例えば「褒め御籤」などは非常にクリエイティブで素晴らしい取組だと思いました。

また、学年ごとに取組をされたところが素晴らしいと思いました。先生がたがこの取組を行って良かったと思えたり、この取組がほかの先生がたやほかの学校の先生がたへのヒントになっていくという循環が起これば、非常に良いと思います。このような取組は、私が関わらせていただいた萱野小学校でも似たような取組があったので、学校間で共有し合えるような機会があると良いと思いました。発表する先生がたも、自分たちの学校の取組の良いところを感じられますし、聞いている先生がたは自分たちの学校でもやってみようというヒントになると思うので、そのような仕組みを市全体として構築していただけると良いかと思います。

最後に、先ほど小田先生がおっしゃったことに関しまして、この PBS の要点は何を標的行動とするかだと思います。要は何を目的として、子どもたちにとってほしい行動はどのような行動なのかということです。現在は、どうしても規律中心になっていると思いますが、そこから発展させていくことも必要だと思います。例えば、私が関わっている学校では、批判も言いにくいことも含めて自分の意見を相手に伝えられるようにしていくために、ポジティブなことばかりを言い合おうというだけでなく、それぞれを大事にしながら批判し合うことも大事にしています。学校教育において、PBS を活用しながらこの観点も目標行動に入れていただければ、学生が、批判されたときに全部否定されたように感じてしまうようなことはなくなっていくかもしれないと思いました。例えば、現在は基本的に先生がたが目標行動を決めていると思いますが、子どもたちと一緒に考えている学校もありますので、自分たちが幸せになるためにはどんな行動ができるかというのを話し合う機会の提供や、それをブラッシュアップしていくというのも次のステップとして良いと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

私からも、一点だけ質問をさせていただいてよろしいですか。

私は、非行や愛着に課題のある子どもたちとよく関わっていて、現在も支援をしているのですが、彼らに褒めるということをする、当たり前なことを褒めると嫌がって反発を受けることが多くあります。そのため、当たり前な行動は認めるようにして、その行動に気づいてるだけの反応を返すというように、褒めるレベルを少し変えたりしています。江見教員は、このような反応を取組の中で感じられたことはありますか。

(江見教員)

伊丹委員長がおっしゃるように、本校でもそのような態度をとる子はいました。彼らはよくない行動を指摘されることが多いので、そういった態度をとりますが、しっかりと見てくれているというのを感じると後でニコッとしたりする様子も見られました。ですので、子どもたちの反応があまりなかったり希薄だったとしても、声をかけ続けるようにしています。少しでも変化が見られたら「すごいね」と言うことを欠かさず、子どもたちの様子を見逃さないことを意識して取り組んでいます。ほかの学年の先生がたも、褒めどころをたくさん見つけられるように視野を広げることを意識してくださってる先生がたが多いと感じています。

(伊丹委員長)

素晴らしいですね。是非これを進めていただいて、市のものとして共有出来たら嬉しいですね。ありがとうございました。

では、次の案件をお願いいたします。

(芝教員)

○資料 3 (PBS に関する校内の取組事例【第五中学校】) に基づいて芝教員から説明。

それでは、第五中学校の PBS に関わる取組を発表いたします。

昨年度から検証加配校でしたので、はじめに昨年度の取組から説明させていただきます。

まずは「のむらプログラム」といって、校長先生のお名前なのですが「のんびり むりなく らくに 学ぼう！」の頭文字をとっています。先生がたで動画を撮って、全学年で認知ソーシャルトレーニングというものを開始しました。最初は、朝の会の10分間を使って各教室でやってもらうところから始めました。場合によっては、全校集会や始業式、終業式などの時間が空いているときに、全校で集まって動画を見ながら意見交流を行いました。

また、Instagram（インスタグラム）になぞらえて「Gochugram（ゴチュウグラム）」というものを職員室の壁に貼っています。子どもたちのいい姿を私が写真に撮り、「いいね！」と思った投稿にシールを貼ってもらうという取組です。生徒だけでなく、先生や来校された方にも参加していただく形で行っています。昨年度は、メッセージカードも同時に行っていたので壁に貼り出していたのですが、今年度はここまでは出来ていない状況です。

PBSの取組は、研修を実施したり私が職員会議等で「こんなことをやります」と伝えていき、クラスで少しずつ広がっていきました。あるクラスでは、「ステキやんボード」という取組が行われました。担任や副担任の先生が子どもたちの良かった姿を貼り出してくださったり、クラスの人数分のノートを用意して子どもたちにランダムに引いてもらい、名前が書いてある子のことを一日観察して、ノートに書いて褒めるようなことを実施してくれたクラスもありました。

また、昨年度から幼小中連携が行われており、その中の一つとして校区でいじめ問題を考える取組があるのですが、Zoomを用いて小学校の児童会と中学校の生徒会でどのようなことをやっていきたいかを話し合う会議を実施しました。

昨年は「いじめ防止標語コンテストの実施」「なかまの『キラキラ星』を見つけよう」「いじめ防止グッズ作成」「いじめ防止の啓発動画の作成」ということで、4つ目に関しては今年度にずれ込みましたが、1つ目から3つ目までは昨年度に実施しました。

いじめ防止標語コンテストについて、第五中学校では「オータムつながりフェスティバル」という地域参加型のイベントを開催しており、地域の方に参加していただいている場でも取組を報告させていただきました。

「なかまの『キラキラ星』を見つけよう」は、目的は資料に書かれているとおりで、幼稚園児、小学生、中学生の良いところを知っていこうという取組です。なか幼稚園、中小学校、萱野小学校、第五中学校で夜空の背景をつくってもらい、そこに友だちの良いところを書いて貼ってもらいました。一週終わったら次の学校に渡して、前の週は中小学校で貼られているものを、次の週は第五中学校でそれを見るということを行いました。

幼小中連携の二つ目の取組は、あいさつ運動です。これは、ここ数年、中小学校、萱野小学校、なか幼稚園に出向かせていただいて実施している取組です。様々なグッズを作成したり、のぼり旗を持ってあいさつ運動を行い、特に小学校では、中学生のお兄さんやお姉さんが来てくれたことで挨拶をしてくれる生徒が増えたという評価もいただいております。ですが、この取組は一部の先生のための発信となっていて、ほかの先生は目の前のことで忙しく手が回らない状況があります。もし転勤や校内の配置換え等があれば、この1年間やってきたことが継続出来ない可能性もあるので、もっと全体に広がっていききたいということを課題意識として持って、今年度を迎えました。

次に、今年度の取組について、効果があったと感じるのは、2年生で行った「チャンピオンベルトへの道」という取組です。資料右側に、ジャブ(担任が自分のクラスをほめたら1点)などと書かれているのですが、取組を始めた当初はこれを隠していました。このパンダだけが謎に貼られていくという1週間があって、子どもたちはこれが何なのか疑問に思っている様子でした。2週目に、パンダのジャブやアッパーの意味が何なのかを示す右側の掲示物を貼り出すと、子どもたちはパンダの意味が分かり、先生は自分たちのことを褒めてくれていたんだと気づいてました。また、学年の先生が実際にチャンピオンベルトを作ってくれて、これが優秀クラスに贈呈されました。すごいなと思った点が、この学年では、4月から6月にかけて問題行動の発生数が伸びていて、子どもたちも先生がたと一緒に良い方向を向いて頑張ることが出来ていませんでした。先生がたも、指導が多くて疲弊していたところがあったのですが、今だからこそ褒めていこうということで、このチャンピオンベルトへの道を行ったところ、7月からは問題行動の発生数が減っていきました。この発生数は、校内のいじめ対策委員会に上がって

くる比較的大きな事案をカウントしており、2学期までの数値は資料のグラフのようになっています。

次に、「Heart Warming Project」について、これは、多くの先生がたに本校のPBSの活動に参加していただきたいと思い、どうにか手軽に出来ないかと考えて始めた取組です。職員室の電子黒板のモニターにエクセルのファイルを映して、授業中に子どもたちを褒めたらハートのボタンをクリックしてもらい、ハートのゲージをためようというものです。目標値を100に設定したので、「100いいね!」が集まると、写真のようにハートのゲージが最大になります。まずは第五中学校だけで行ったのですが、見事一週間のうちにハートをためることが出来ました。管理職の先生に、「全部貯まったら何かいいことをしてください」とお願いをしたところ、チョコレートを配ってくださって、先生がたもほっこりしたという話もありました。その後、この取組を検証加配校で第一中学校と一緒に取り組みました。1回目は、褒めるポイントをあまり明確にはせず、とにかく褒めたら押すということにしました。2回目は少しバージョンアップをして、褒めるポイントを明確にして行った結果、1回目が「308いいね!」、2回目が「516いいね!」ということで、回を増すごとに少しずつ増えていくことを実感出来ました。

同時期に、ある先生の国語の授業で、どれだけ生徒を褒めているかという称賛回数をカウントする取組を行いました。これも検証加配校の中で、中学校はこうしていこうと決まった取組で、本校ではB組とC組で行いました。C組は検証する先生の担任のクラスで、隣がB組です。この2クラスの授業にコーディネーターである私が入り込んで、同じ基準で称賛回数をカウントするというを行いました。初めは称賛回数が3回程度と少なかったのですが、2回目は21回褒めていて、実際にこの21回褒めた授業は、雰囲気も非常に良かったです。B組はおとなしいという評判があったのですが、活発に意見も出ており良い雰囲気での授業が行われていました。授業後に、今日先生何か良いことありましたかと聞きに来る子がいるぐらい、すごく効果があったということで実施された先生もとても喜んでいました。当初、実施された先生は、普段自分はあまり褒めないとおっしゃっていたので、1回目が終わった後に、「褒めるポイントはたくさんありますよ」と私のほうからお伝えしました。当たり前だと思われるかもしれないが、生徒が教科書を開いていて、書くべきことをしっかりと書いて読むべきところをしっかりと読んでいて、これだけでも褒めるべきポイントがたくさんあることを伝えたと、2回目では称賛回数が伸びていきました。そして、せっかくこのようなキャンペーンを行いましたので、子どもたちにもフィードバックを行いました。朝の時間や終礼にお邪魔して、良かった点を褒めると子どもたちはすごく嬉しそうで、また言葉だけでなく、実際に子どもたちの良かった姿を写真に撮り、そちらのフィードバックも行いました。

また、上記の取組では、称賛回数だけでなく授業準備が出来ている割合も数えていました。第五中学校の中では定番になりつつあるのですが、先ほどのチャンピオンベルトへの道と同じ手法で、途中までは何の数字か知らせないようにしました。終礼時に、担任の先生に「今日は60%だったよ」「今日は37%だったよ」と伝えていただき、途中の段階で実は授業準備が出来てる割合を調べていたということを伝えると、子どもたちの中で頑張ろうという声が上がリ、3回目、4回目では90%近くの数字を出すことが出来ました。この割合の上昇に伴い、授業準備をするためには席に着いている必要があるのも、子どもたちはチャイム着席も完璧に出来るようになったと思います。

そして、資料の中に、実際に介入した先生のPBSに関するアンケートを記載しております。介入前が青色で、介入後がオレンジ色になっているのですが、「問題行動が何か決める」という項目以外は外側に広がっているのが分かるかと思います。その先生には、当初「自分は褒めないからこの取組をやるのは嫌だ」とはっきりと言われたのですが、「先生が協力して下さることで第五中学校のためになります」と説得して実施していただいた結果、すごく良い変化があり、最後には楽しかったと言っていたぐらい効果があったと思います。

それから、昨年度に引き続き幼小中連携も行っており、「いじめ防止の啓発動画の作成」が昨年度からの宿題として残っていましたので、校区の児童会、生徒会、大阪大学の映像サークルの方々にもご協力いただいて、いじめ防止動画を作成しました。

同時並行で、今年度は「いじめ防止キャラクターコンテスト」を行いました。資料内の写真は、オータムつながりフェスティバルで今年度の表彰を発表している様子です。また、コンテ

ストの応募作品の中から優秀作品を決定し、「みんなの笑顔が宝物 No いじめ! 明るい未来をゲットだぜ!」というノートをつくりました。コンテスト実施後、それぞれの学校でいじめ防止動画を活用した授業を行っていただき「『みんなの笑顔が宝物 No いじめ! 明るい未来をゲットだぜ!』を実現するためにあなたができることは何ですか」という問いに対して、子どもたちが意思表示を行うことで、このノートがもらえるという仕組みになっていました。

最後に、昨年度の課題として、一部の先生のための発信となってしまったということがありました。実は最近になって改善されつつあります。ある先生が私に「楽しい学校生活は、やはり自分たちでつくっていくべきだと思うので、PBS をどんどんやっていきたいです」と言ってくださったり、現在企画をしている最中なのですが、文化委員企画で学校かくれんぼという案が出たりしています。文化委員は、文化祭に関することが主な役割ですので、後期に仕事がなくこれまでは惰性で委員会を行っていたのですが、この学校かくれんぼをテレビ番組を参考に企画させていただいて、現在構想を練っているところです。先ほど紹介した言葉を伝えてくださった先生も、「教員採用試験の勉強でPBS を習いましたが、実際に本校でPBS を具体化されている姿を見て、どのようにやっていけばいいのかということが腑に落ちました」と言ってくれました。

そして、先ほどお話しした学校かくれんぼを実現するために、文化委員と生活委員が主となって「THX (サンクス)」という取組を実施しています。これは、「Heart Warming Project」を見た先生が「今度はこれを子どもたちにフィードバックしていきたい」と言ってくださり、各クラスでの授業などで子どもたちを褒めたら、丸をしたりシールを貼っていき、何回褒めたかというのをみんなで貯めていく取組を始めてくれました。このTHX という名前はTeacher の「T」、日本語ですが「発見する」の「H」、「X」は数学の方程式等に使われる「X」の意味があります。またもう一つの意味として、「THX」は「Thanks」の略語で、たくさんの褒め言葉をもってみんなが温かい気持ちになって、温かい学校になってほしいという意味が込められています。この取組で特に良かった点は、先生が子どもたちに、どこを褒めてほしいかを聞いたことだと思います。先生の褒めるポイントと子どもたちが褒めてほしいポイントがずれると、効果が薄れてしまうと聞いたことがあるので、先生がたが注目している点を子どもたちにも伝えながら、取組を進めているところです。

最後に、生徒向けのPBS アンケートをとった結果、昨年度は全般的にあまりよくない数字が出ていたのですが、今年度は、「向社会的行動」以外では優位に数値が動きました。この結果について、次の職員会議で時間をいただいて、どのような取組が良かったかを全教員で共有する予定になっております。

今後の目標について、この2年間の取組を継続すること、そして子どもたちのよい姿を引き出すための取組を、たくさんの先生が実践したいと思うことが目標です。また、最終的には、子どもたちのほうからこんなことがしたいと、たくさん主張してほしいと思っています。先ほど申し上げましたが、1年目の課題が、2年目になって少しずつ解消されつつあるというところが、この2年間PBS を続けてよかったと感じる部分の一つです。この取組に興味を持ってくれて、実践してくださる先生が増えれば増えるほど、良い学校になっていくのではないかと考えております。以上です。

(伊丹委員長)

丁寧の説明していただき、ありがとうございました。子どもたちに、取組の内容を内緒にして試行する期間を設けているところがとても興味深かったです。また、褒めるポイントというのは非常に難しい問題ですが、こちらもしっかりと定義していただいたり、結果をデータやグラフで示していただいているところが、ほかの先生にも理解していただきやすかったのではないかと思います。よく練り込んだ、温かい、また、生徒指導提要でも言われている発達支持的生徒指導の視点も含んだ非常に素晴らしい取組だと思います。そして、校区で実施されたというところの素晴らしさも、一際目を引いたところだと思います。

小田委員から、一言ご意見をお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

(小田委員)

中学校でこのような取組が出来るというのは、本当に素晴らしいと思います。

私は、もともと保健体育担当だったので児童生徒に叱る役割が多かったのですが、そのなかで、どのように叱るべきかを考えさせられることは多々あったかと思います。それが、中学校の在り方も変わってきて、自己肯定感を高め合うような教員集団であることや、自己肯定感を高め合うような生徒との関係が大事になってきていると感じました。

私は、40年前に初任で入った学校が、肢体不自由学校でした。当時は義務化が始まっている頃で、私は最重度児のところに入りましたが、叱ることはほとんどなく褒めることばかりでした。生徒が教室の外に出て行ったら、「どこに行くの。よくここまで来れたね。」と伝えていましたが、今思えばすべてがPBSだったと思います。ですが、その後知的障害の学校に勤めたとき、生徒が外に出るとばっと捕まえて、「どこにいくの！」と叱る先生がたが多い印象を受けました。生徒たちがどこかへ行ってしまふことで、後で周りの教員から指摘を受けるよりもすぐに捕まえてあげるほうが、先生がたにとって安全だと考えられていたのだと思います。

この二つの違いを考えると、PBSによる先生がたの余裕と温かさが集団づくりに大きく影響するのではないかと思います。非常にモデルになるような実践を聞かせていただいたと思っています。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

野口委員からもご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(野口委員)

すばらしいご発表をありがとうございました。

中学校においてPBSを実践することは難しいと言われているのですが、生徒指導提要の発達支持的生徒指導の視点もあり、問題行動の低減につながったということをデータで示していたいて、本当に素晴らしい実践例だと思いました。

先ほどの事例発表でも話がありましたが、芝教員は先生がたにとってのPBSを仕掛けることが本当にお上手だと思います。先生がたにとって、ボタンを押すだけでいいというハードルの低さはとてもありがたいと思いますし、先生がたがこれをやってよかったと思えるような取組をたくさんされていると感じました。ぜひ、この取組をほかの学校にも広げていただけると嬉しく思います。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

実践を続けていただき、結果を見直すことによる支援を今後も続けていただけたら嬉しく思います。

さて、その他の案件について、事務局より何かございますでしょうか。

(事務局：川田室長補佐)

○参考資料（箕面市支援教育方針の策定による支援学級在籍児童生徒数の変化について（R7.2.18時点））に基づいて事務局から説明。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。支援というのは、当事者の方々のためのものだと思っておりまして、最後に、ゆうやけの会様とつばさの会様より、ご意見等いただけますでしょうか。

(ゆうやけの会代表)

小学校と中学校の取組を先ほど見させていただいて、今後社会に出る子どもたちのために、先生がたが素晴らしい取組をしてくださっているのが、保護者としてはありがたくて頼もしいですし、とても感動しました。

このような取組について、本委員会に参加するまでは、教育委員会の方々や先生がたの思いを知ることがなかったので、貴重な機会を与えていただいて本当に心から感謝しております。

保護者会でも伝えていきたいと思いますので、本当に良い機会を与えていただきありがとうございました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

つばさの会様、何かご意見等ございますでしょうか。

(つばさの会代表)

改めて、褒めるということは大切だということが分かり、今年度の会議に参加させていただきありがたく思っております。皆様が色々と頑張ってくださっていることもよく分かり、大変勉強になりました。これからも、子どもたちのためにどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。

最後にご意見を聞くことができて、良かったです。

以上をもちまして、今年度の委員会の開催につきましては、終了となります。

案件3 その他

(事務局：川田室長補佐)

皆様ありがとうございます。令和6年度の箕面市支援教育充実検討委員会につきましては、本日で終了となります。

令和7年度も引き続き、充実検討委員会を開催させていただければと考えております。

保護者会の役員改選など、参加いただいている委員が替わる場合がございますが、新しく委員になられたかたにつきましては、前委員の任期を引き継いでいただく形となっておりますので、よろしくお願いいたします。

令和7年度の開催につきましては、今のところ3回を予定しております。開催日が決まりましたら、ご連絡いたします。

今年度、委員を務めていただきました皆様につきましては、ご多忙にも関わらずご参加いただきまして、ありがとうございました。事務局より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。以上でございます。

4. 閉会

(伊丹委員長)

それでは、令和6年度第3回箕面市支援教育充実検討委員会を閉会します。

皆様、ありがとうございました。